

資料 1 芳賀眞矢子様より寄贈品目録

No.	品目	形態
1	矢一様のめがねとケース	丸めがねとケース入り
2	記念懐中金時計	ケース入りと包装紙 各1
3	ベルリンよりの絵葉書 直筆	額入り絵葉書 1枚
4	大正天皇即位式記念の徽章	徽章 1 大正4年11月
5	韓国併合記念章	徽章 1 明治43年8月29日
6	木製の瓢箪付き小型円盤	現在のストラップの役割? 1個
7	芳賀博士追悼録 永井 環著	原本 1冊
8	第六習字本 堺縣 小学習字本 邨田海石書	原本 1冊
9	尋常小學指教図入門 文部省蔵版明治15年10月	原本 1冊
10	漢史一斑 文部省創刊明治16年3月 岡島氏蔵版	原本 1冊
11	小學習字本 第二 浪華文會編纂 邨田海石著 明治14年10月4日	原本 1冊 武村祥二所有
12	望雲子十訓抄 上	原本1冊芳賀蔵書印有(芳賀文庫シール有)
13	望雲子十訓抄 中	原本1冊芳賀蔵書印有(芳賀文庫シール有)
14	望雲子十訓抄 下	原本1冊芳賀蔵書印有(芳賀文庫シール有)
15	築地村歌 芳賀矢一作詞	中条公民館よりのFaxのコピー 1枚
16	文部省唱歌「鎌倉」鎌倉駅発車メロディーに 2013.6.25	原本 お知らせのちらし1枚
17	うめサブロー ネームプレート (ちらし)	原本 お知らせのちらし1枚
18	芳賀矢一先生著作目録 昭和52.9.19	コピー 13枚
19	辞令一通 国語調査委員会より 明治43年3月24日	原本 1通
20	芳賀矢一先生のスケッチと編集委員方の寄せ書き	原本 1通

※ 寄贈品 写真

《第1回 展示にて使用》



No.20 国語調査委員会の方々の寄せ書き

《第2回 展示にて使用予定》



No.1 芳賀博士愛用のめがねとケース



No.3 ベルリンよりの直筆絵葉書


資料2 【第1弾 展示】

「文部省唱歌」誕生秘話 ～歌詞編纂の最終責任者 芳賀矢一博士の校閲～

明治前期の教育者高田田次博士

芳賀矢一

Hara Yachi
1867-1927
明治30年(1897) - 明治37年(1904)



高田田次 出身

明治・大正・昭和・平成と・・・107年間 時代を超えて歌い継がれる


「文部省唱歌」誕生秘話

～歌詞編纂の最終責任者 芳賀矢一博士の校閲～

序章	第1章	第2章	第3章								
<p>日本人の作詞・作曲による「文部省唱歌」の誕生へ</p> <p>1872 (明治5)年の学校公報に併し、1877 (明治10)年から小学唱歌集などの編集・刊行が始まりました。当初、編纂された唱歌集は、外国曲の旋律に歌詞をつけた作品がほとんどでした。日本人の作詞・作曲による作品もありましたが、それは、歌詞を曲解で、言葉の押韻とリズムが合わないなど、子どもにとっては歌いにくいものでした。</p> <p>やがて、1897 (明治30)年には、「言文一致唱歌」を作成する運動が起り、乾太郎など、日本語を多量に用いた口語に近い唱歌が編纂されました。</p> <p>こうした動きの中、文部省は、1907 (明治42)年に、国語読本「尋常小学校本」の原文から27首を選定して曲をつける「尋常小学校本唱歌」の編纂に取りかかりました。</p>	<p>「文部省唱歌」編纂のねらい</p> <p>1907 (明治42)年、文部省は、作詞と作曲の二つの委員会から成る小学校唱歌教科書編纂委員会を立ち上げ、6月に第1回編纂委員会を開催しました。文芸調の品格の高さを残しつつも、子どもたちに親しみやすい歌詞の唱歌教科書の編纂を目指しました。日本の暫定教科書「尋常小学校本唱歌」の編纂には、次のように記されています。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">訓 示</p> <p>尋常小学校唱歌の編纂は、その性質上、児童の生活に親しみ、かつ、その生活に反映し、その生活に役立つものとする。そのために、歌詞は、児童の生活に親しみ、かつ、その生活に反映し、その生活に役立つものとする。そのために、歌詞は、児童の生活に親しみ、かつ、その生活に反映し、その生活に役立つものとする。</p> </div>	<p>才能光る芳賀博士—歌詞の選定と校閲—</p> <p>編纂委員会では、国語読本の原文を中心として、唱歌の候補を選定しました。その中から、まず、音調を重視したり、やさしい言葉遣いに変えたりなど、作詞の専門家が作られるまで、幾度も修正が加えられたのです。</p> <p>こうして作成された草案の校閲に付き、高田博士が最終責任者として、校閲に当たりました。高田博士は、次の2つに重きを置きました。</p> <p>① 歌詞の一字に至るまでの細かい修正 ② 子どもが親しみやすく、わかりやすい言葉遣いを求めた修正</p> <p>小学校唱歌教科書には「国語」で「読書」の内容との関連が認められました。国語読本の等価博士は、「国語読本」の編纂にも中心的役割を果たしており、委員会でも、切れ目なく関係に校閲していききました。</p> <p>その際、完成した歌詞は、作曲委員会に議論を交わしながら一首ずつ作られていきました。こうして、1910 (明治43)年に、暫定教科書「尋常小学校本唱歌」が完成したのです。</p>	<p>遂に完成!!「文部省唱歌」</p> <p>「尋常小学校本唱歌」の完成後、唱歌の編纂は続きました。1914 (大正3)年までに、等価博士の「尋常小学校唱歌」が廃止され、採録された120曲に及びました。</p> <p>日本人による作詞・作曲で作られた「文部省唱歌」。ここには、等賀博士の様々な思いが詰まっています。</p>								
<h4 style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px;">終章</h4> <p>107年後の今も歌い継がれる「文部省唱歌」</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <tr> <td style="width: 25%;"> <p>＜1 国語＞ 1907 (明治42)年 1908年 (明治43年) 1909年 (明治44年)</p> </td> <td style="width: 25%;"> <p>＜2 国語＞ 1910 (明治43年) 1911年 (明治44年) 1912年 (明治45年)</p> </td> <td style="width: 25%;"> <p>＜3 国語＞ 1913年 (明治46年) 1914年 (明治47年) 1915年 (明治48年)</p> </td> <td style="width: 25%;"> <p>＜4 国語＞ 1916年 (明治49年) 1917年 (明治50年) 1918年 (明治51年)</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>＜5 国語＞ 1919年 (明治52年) 1920年 (明治53年) 1921年 (明治54年)</p> </td> <td> <p>＜6 国語＞ 1922年 (明治55年) 1923年 (明治56年) 1924年 (明治57年)</p> </td> <td> <p>＜7 国語＞ 1925年 (明治58年) 1926年 (明治59年) 1927年 (明治60年)</p> </td> <td> <p>＜8 国語＞ 1928年 (明治61年) 1929年 (明治62年) 1930年 (明治63年)</p> </td> </tr> </table>				<p>＜1 国語＞ 1907 (明治42)年 1908年 (明治43年) 1909年 (明治44年)</p>	<p>＜2 国語＞ 1910 (明治43年) 1911年 (明治44年) 1912年 (明治45年)</p>	<p>＜3 国語＞ 1913年 (明治46年) 1914年 (明治47年) 1915年 (明治48年)</p>	<p>＜4 国語＞ 1916年 (明治49年) 1917年 (明治50年) 1918年 (明治51年)</p>	<p>＜5 国語＞ 1919年 (明治52年) 1920年 (明治53年) 1921年 (明治54年)</p>	<p>＜6 国語＞ 1922年 (明治55年) 1923年 (明治56年) 1924年 (明治57年)</p>	<p>＜7 国語＞ 1925年 (明治58年) 1926年 (明治59年) 1927年 (明治60年)</p>	<p>＜8 国語＞ 1928年 (明治61年) 1929年 (明治62年) 1930年 (明治63年)</p>
<p>＜1 国語＞ 1907 (明治42)年 1908年 (明治43年) 1909年 (明治44年)</p>	<p>＜2 国語＞ 1910 (明治43年) 1911年 (明治44年) 1912年 (明治45年)</p>	<p>＜3 国語＞ 1913年 (明治46年) 1914年 (明治47年) 1915年 (明治48年)</p>	<p>＜4 国語＞ 1916年 (明治49年) 1917年 (明治50年) 1918年 (明治51年)</p>								
<p>＜5 国語＞ 1919年 (明治52年) 1920年 (明治53年) 1921年 (明治54年)</p>	<p>＜6 国語＞ 1922年 (明治55年) 1923年 (明治56年) 1924年 (明治57年)</p>	<p>＜7 国語＞ 1925年 (明治58年) 1926年 (明治59年) 1927年 (明治60年)</p>	<p>＜8 国語＞ 1928年 (明治61年) 1929年 (明治62年) 1930年 (明治63年)</p>								


【事例1】 歌詞の一字に至るまでの細かい修正例

この事例では、歌詞の一字に至るまでの細かい修正が行われています。



【事例2】 子どもに親しみやすく、わかりやすい丁寧な言葉遣いを求めた修正例

この事例では、子どもに親しみやすく、わかりやすい丁寧な言葉遣いを求める修正が行われています。



【芳賀博士の校閲】

1. 歌詞の一字に至るまでの細かい修正
2. 子どもに親しみやすく、わかりやすい丁寧な言葉遣いを求める修正

2017年 懐かしの唱歌 さかのぼり年表

元号(年)	明治	大正	昭和	平成
西暦(年)	24年 1891	43年 1910	5年 1916	18年 1941
学校の移り変わり	尋常小学校		国民学校 各市町の小学校	
寺から脱却?	125年前		100年前	75年前
だれが子どものころ?	おじいさんの おとうさんの 子どものころ	おじいさんの おとうさんが 子どものころ	おじいさんが 子どものころ	おとうさんが 子どものころ
	135才の人が 子どものころ	110才の人が 子どものころ	85才の人が 子どものころ	60才の人が 子どものころ
教科書の移り変わり	小学唱歌集	幼年唱歌	ワタノホン上	1人1人の歌んが
	尋常小学校本唱歌	大正少年唱歌	うたのほん下	小学生の歌んが1
時代を越える唱歌	* 誤国 (スコットランド民謡) - 敵艦の来 - 旗艦 - 雲の死		* へいさいさん - 雲の来 - 旗艦 - おれは海の子	
	* わらわらうたより (江戸時代) - はるかない、盛りやんせ、せめめかめ - すいすいすこころぼし、おちやがはい * 日本文化館による作品 - 花 - お正月、おみじ、七つの子、夕焼けごやけ - 春の小川、ふるさと、おぼろ月夜、さんび - 春らんば、この涙、たなはた、雪の夜 - シンボラ、雲つみ、せいくらべ - かなづつり、めだかの聲、さようちゆう - うみ、春がきた、どんぐりころころ など多数		歌んが 日本 決定歌	
	*100年以上、愛唱されている			

芳賀博士のもうひとつの顔

この寄せ書きは、委員会や会議が重なる多忙な中、文部省国語調査委員会のメンバーと、つかの間のかつらきを楽しんでいる様子です。後藤朝太郎の俳句と、比佐裕次郎が描いた画から、芳賀博士の人間味あふれるユーモラスな一面がうかがえます。

